

# チェルノブイリ通信

2008年9月13日

No. 74

発行 NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク 事務局  
連絡先 福岡県古賀市駅東2-6-26 パステル館203号  
TEL・FAX 092-944-3841  
E-mail jimmu@cher9.to  
URL <http://www.cher9.to/>  
郵便振込口座 01770-1-65328  
NPO法人 チェルノブイリ医療支援ネットワーク

チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、  
現地から求められる医療支援を行います。

この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



子どもたちの笑顔を未来につなぐために…(2006年 首都ミンスクでの国際会議にて)

## 特集：点から線、線から面へ… 広がる専門家交流と活かされる支援 ビテフスク州立内分泌診療所 タチアナ医師に聞く

秋の検診団派遣のためのご支援のお願い

教育の現場で伝えるチェルノブイリ  
～北九州市立石峯中での授業報告～

連載第3回：  
ベラルーシ、ミンスクのNGO「コンフィデンス」

理事長交代のごあいさつ

「のぞみ21」 ステパンさん計報

新事務所ごあんない

事務局日誌より 主な活動報告

会員さん紹介コーナー

募金者のお名前とメッセージ

# 特集

## 点から線、線から面へ。。。。

### 広がる専門家交流と活かされる支援

#### ビテフスク州立内分泌診療所 タチアナ医師に聞く

今年6月30日～7月11日、放射線被爆者医療国際協力推進協議会(HICARE:ハイケア)の研修事業により、ベラルーシ北部のビテフスクからタチアナ医師が広島を訪れた。

ビテフスクは、2004年秋にチェルノブイリ医療支援ネットワークの検診団が訪れた町である。タチアナ医師は、州立内分泌診療所スタッフとしてこの時の検診に参加していた。日本とプレストの検診チームとの交流は、医療対策が遅れがちなビテフスクにとって、医療技術や検診システムを学ぶまたとない機会として歓迎され、日本からビテフスク州立内分泌診療所へ高性能のエコーが贈呈された。

今回のタチアナ医師の研修では、広島大学や広島赤十字・原爆病院、広島甲状腺クリニック等での連日の研修を行い、国内では学ぶことのできない医療現場の技術に触れる機会を得た。

研修期間中、タチアナ医師を訪ね、チェルノブイリ事故当時の様子や2004年に実施した検診のその後について、お話を伺った。

#### ■チェルノブイリ事故当時のこと

1961年7月17日にプレスト州のバラノビッチ市で生まれ、今年で47歳になります。

1978年にビテフスク州のビテフスク医科大学に進学し、結婚しました。1984年、軍医だった夫の転勤でバラノビッチ市に戻り、1987年まで市内の病院に一般勤務医として勤務しました。

1986年4月26日のチェルノブイリ原発事故のことを、よく覚えていません。当時私たちが住んでいたバラノビッチ市は、チェルノブイリから百数十キロ北西にあり、お腹の中には妊娠一ヶ月の長男がいました。事故について、翌日報道がありました。事故が、ごく簡単な内容でした。事故翌日に、バラノビッチ市でにわか雨が降り、確かに「黄色い雨」だったことをよく覚えています。

#### ■子どもの健康がいつも気がかり

妊娠中だったため、赤ちゃんの健康について心配しました。いつも放射能の影響を心配し、何度も医療専門家に相談し、検診を受けました。翌年1月、無事に長男を出産した時には、それまでの不安が一切吹き飛んでしまいました。

ところが数年後、汚染地で「小児甲状腺ガン」が多発していることが報道され始めました。再び長男の健康が不安になり、いつも検診を受けさせてきました。幸いにしてその後健康に成長し、現在はチェルノブイリ事故と同じ、22歳に

なっています。モスクワで法律を学んでいます。健康についての不安はいつも胸にあります。定期検診だけはきちんと受けるよう、母親として、医師としてアドバイスしています。



ビテフスク州立内分泌診療所  
超音波検査室室長  
タチアナニコラエフナ・ポスコボイニコバさん(47)

## ■汚染地からの移住者の健康問題

ビテフスク州は、放射能に汚染されていない「クリーンな州」とされています。「クリーンな州」であるため、政府からチェルノブイリ関連の医療政策はあまり行われていません。ブレストのように、国際赤十字やNGOが支援を行うこともありません。しかし、非汚染地であるからこそ、汚染地から多くの避難住民が移住しました。ビテフスク州内には、農村部を中心に22,000人の移住者が暮らしています。農村部では医療が遅れているのが現状で、病院も遠く検診に行く機会もあまりありません。現在、汚染地からの移住者の間では、「自己免疫性甲状腺炎」が多く見られています。

## ■2004年の検診のその後

2004年10月のチェルノブイリ医療支援ネットワークによる検診は、私たちにとって貴重な機会でした。日本からの検診団訪問によって、日本やブレスト州の優れた専門家と交流し、学びの機会を得たことは何よりも喜ばしい出来事でした。日本は世界的にも高い医療技術を持っていますし、その日本の医師や市民グループと連携しているブレスト州の専門家の噂は、私たちも耳にしていました。彼ら優秀なスタッフと、甲状腺ガン発見のための高

い技術は、ベラルーシ国内でも高く評価されています。

2004年の皆さんの訪問をきっかけに、私たちも国内での交流を進め、甲状腺ガン検診技術を高めることにしました。その後、アルツール医師（ブレスト州内分泌診療所所長、国際赤十字移動検診チーム）をビテフスクへ呼び、私たち医療スタッフでの研修会を開催しています。

## ■日本からのエコーにより高度な検診が可能に

また、この時に日本の皆さんから届いた超音波診断装置（エコー）「日立 EUB-405E」と吸引穿刺セットのおかげで、現在わたしたちのビテフスク州立内分泌診療所で吸引穿刺を行うことができています。以前使っていたエコーは古く、解像度が低



研修中のタチアナ医師

いたために、2〜3cmの腫瘍を、触診で吸引穿刺を行ってきま

した。それが今では、わずか2〜3mmの腫瘍でも、エコーガイド下で正確に吸引穿刺を行うことができるようになりました。本当に素晴らしいことです。日本の皆さんからの善意に、改めて感謝します。

## ■不足する医療器具も

いろいろと課題もあり

ます。私の部署には、一日に30人ほどの患者が診察に来ます。その約半数は、正確な診断を受けるために吸引穿刺が必要です。15人ほどに



広島甲状腺クリニックのカラーエコーを興味深く調べる

毎日吸引穿刺をするわけですが、カプラー（エコーガイド下で吸引穿刺するためにプローブ・触探子につける）は現在2個しかなく、診察が終わる度に急いで消毒をして使い回しています。カプラーは優先度が高く、できれば、5〜10個ほどあれば、効率的に吸引穿刺を行うことができます。汚染地からの移住者や患者の命を一人でも多く救えるよう、「甲状腺ガンの早期発見・治療システム」の構築は、大変重要なことだと思っています。

今回のHCAREによる広島での研修は、毎日がハードなものでしたが、非常に貴重な経験となりました。日本か



甲状腺ガンの手術を見学するタチアナ医師

ら検診に来て下さった後の4年間が、まるでこの2週間にぎゅっと濃縮されたような密度でした。また帰国してから周囲の医師たちと経験や知識を共有したいと思っています。

病院と患者を代表して、もう一度心からお礼を申し上げます。チェルノブイリ医療支援ネットワークと日本の皆さんと、今後も長い友情の糸で結ばれることを願っています。(談)

◆プレスト州では・・・

2002年、州立内分泌診療所、国際赤十字移動検診チームと共に日本・ベラルーシ合同の甲状腺ガン検診プロジェクトの拠点に。ガンの早期発見・診断に欠かせない吸引穿刺と細胞診の技術習得と、エコーや顕微鏡、検査試薬など、汚染地の医療拠点施設としての充実を図ってきた。現在では、国内随一の高い診断技術を持ち、さらに多くの医師育成が期待されている。



◆ストーリーン地区では・・・

1997～2001年までの、検診プロジェクトの最初の拠点。多くの患者がいながらも、ガン検診技術と設備が不足している中で、首都ミンスク及び州都プレスト市の医療機関との連携と現地医師育成、医療機器整備に着手。基本的な検診の流れができ、医師が育成された。2006年に再訪しフォローアップと検診を実施。現在はプレスト州立内分泌診療所の検診によってカバーしている。

チェルノブイリ支援の広がり  
・・・点から線へ、線から面へ・・・

皆さんと一緒にまいた小さな種が、現在それぞれに育ち始めています。



◆ビテフスク州では・・・

非汚染州での甲状腺ガン検診を行うため、2004年10月に初めて訪問。プレストからも医師らが応援に駆けつけ、2つの州と日本との合同検診を実施。その後、プレストの医師たちの高い医療技術と検診システムを見本に、ビテフスクでも甲状腺ガンの検診システムを立ち上げた。日本から贈呈された新型エコーも大活躍中。



◆国内やウクライナでは・・・

プレスト州のパートナーであるプレスト州立内分泌診療所(国際赤十字移動検診チームを兼務)の医師は、甲状腺ガン検診・診断技術を教えることで州内の他地区の医師育成に取り組み始めた。また、ゴメリ州、ウクライナ共和国ジトミール市で活動する、同じ移動検診チームにも伝え、高い技術を持つ新たな医師らが育成されつつある。

◆首都ミンスクでは・・・

検診団訪問に合わせ、10番病院や医学再教育センター主催のシンポジウムを毎年開催。全国から専門医が学ぶ研修の機会となっている。



# 目標金額まであと 100 万円！ 秋の検診団派遣のためのご支援のお願い

いつも、チェルノブイリの困難の中に生きる被災者への支援をお寄せ下さり、ありがとうございます。今号の特集で紹介したように、チェルノブイリ被災者を救う私たちの小さな取組みは、日本とベラルーシの多くの市民と医療関係者に支えられて、少しずつ芽を出しつつあります。

今年10月には、ブレストでの甲状腺ガンと乳ガン検診を行う、検診団派遣プロジェクトを計画しています。これまでの甲状腺ガン検診は、日本の技術を現地に伝えるという面では高い成果を上げつつあります。日本の医師によると、ブレスト州立内分秘診療所のアルツール医師の吸引穿刺技術は、すでに日本の医師と同等かそれを上回るほどだという、うれしい評価を受けるまでになりました。今回から始める乳ガン検診は、これまで日本から寄贈された超音波診断装置（エコー）を活用し、甲状腺検診と並行して行うことにしています。

今回、甲状腺ガン・乳ガン検診を実施するため、日本医科大学の医師や検査技師、学生ボランティアに参加いただく予定です。加えて、2004年にビテフスク州で行った59名の検診の結果を確かめるため、広島医師にも参加いただく予定です。特集記事にあるタチアナ医師も参加した4年前の検診は、汚染地であるブレスト州ストーリーリン地区、ブレスト市と非汚染地のビテフスク市のデータを比較することによって、甲状腺が放射能によりどのような影響を受けたかの科学的な裏付けをとることも目的の一つでした。検診結果の概要は患者へ伝えられましたが、より詳細な細胞診の結果を出す時間がありませんでした。今回の検診では、武市宣雄医師を中心にこの時の結果を確認し、その内容を日本へ持ち帰り、最終的に報告

書にまとめる予定です。

放射能とガンなどの病気との関係は非常に複雑で、このような総合的な調査はまだ誰も行っていません。「チェルノブイリ」が甲状腺にどのような影響を与えたかの総合的な報告をまとめることで、病気の傾向が分かり、多くの被災者の命を救うことが可能になります。私たち市民グループは専門家と協力し、検診を行うだけではなく、総合的な結果をまとめるという、世界中で初めての取り組みを行っています。

遠くベラルーシまでの検診団の派遣には、多くの費用が必要です。医療支援や現地NGO支援を含め、今年の検診団派遣には、皆さまから寄せられたカンパから、およそ430万円の予算を組んでいます。しかし、現在のところ目標金額まで及ばず、このままでは予定通り検診団派遣をすることが難しい状況です。

日頃から様々な形でご支援下さっている皆さまに、通信でこのようなお願いを差し上げることをご希望下さい。これまで活動を支えてきた助成金には、事故からの長い時間の経過などを理由に廃止されるものもあり、皆さまからのご寄付がより一層の拠り所になっています。

チェルノブイリ医療支援ネットワークは、他のNGOに比べ、大変多くの方がそれぞれの気持ちを持ち寄って支えているという特徴があります。皆さまからお預かりしたご寄付を意義のある活動に使わせていただいていると確信しています。どうぞご支援をお願いいたします。

(理事／河上雅夫)

## 【2008年秋の検診団派遣 予算】 ※現時点での概算です

### ■医療支援

ビテフスク州立内分秘診療所（カプラー6～8個） 約15万円  
ブレスト州立内分秘診療所（検査試薬、医療機材） 約20万円  
10番病院（検査試薬、医療機材） 約20万円

### ■検診車「雪だるま2号」維持費 1500ドル

### ■現地NGO等支援

コンフィデンス運営費 900ドル  
のぞみ21運営費 約25万円

### ■のぞみ21雑貨仕入れ・送料 4500ドル

### ■ベラルーシ側スタッフ人件費・通信費 1200ドル

### ■派遣旅費 約250万円

交通費、保険料、物資運送費、ビザ申請費、現地滞在費、通訳謝礼等を含む

### ■その他雑費 約2万円

派遣に必要な  
目標金額まであと

100万円

【郵便払込口座】

01770-1-65328

NPO 法人

チェルノブイリ医療支援ネットワーク

※コンビニ振込、e-bank、ゆうちょ自動引落し等も  
あります。ぜひご利用下さい。詳しくは事務局まで。

# 教育の現場で伝えるチエルノブイリ 北九州市立石峯中での授業報告



ペラルーシの民族衣装を着てロシア語で挨拶するクラス委員の皆さん

北九州市立石峯中学校で、毎年一度、チエルノブイリ医療支援ネットワークが講演をするようになって5年目になります。全校生徒約200人の小さな中学校は、洞海湾を望む小高い丘の上にあります。毎年変わる顔ぶれの生徒たちは、大きく映し出されるスライドや映像を見ながら、初めて聞く「チエルノブイリ」に熱心に耳を傾けてくれます。今回は、5月に行った石峯中での講演報告とともに、生徒たちにより深く伝えるよう工夫された授業カリキュラムについて紹介します。

## ■石峯中学校での取り組み

石峯中では、2004年から、「国際理解」や「平和教育」の時間として、チエルノブイリ医療支援ネットワークのスタッフから話を聞く場を設けて下さっている。

取組みのきっかけは、会員であり、中学校の英語の先生をされている貞池和恵さんが同校に異動されたことだった。年に一度の授業はその後、ロシア語の歌や英語によるビデオメッセージ、お見舞いのプレゼント作りから、生徒会での募金や文化祭でのチャリティバザーなどの自主的な活動に展開している。後輩は、先輩たちのこれまでの交流や取組みを受け継いで、新たにチエルノブイリに触れ、考える機会につながっており、先生方より、生徒がボランティアや世界と自分との関わりについて

考える機会として上手に授業の中に取り入れていただいている。

## ■2008年度の授業カリキュラム

さて、今年は1年生72名向

けに授業を組んでいただいた。道徳・総合的な学習の時間として、「国際理解」「チエルノブイリ原発から学ぶ」をテーマとして、事前と事後の感想文を書く時間も含め5時間の授業となった。同校では今年が初めての試みだが、ちょうど3年生が修学旅行に行っている時期を使い、1年生、2年生も変則授業になるのに合わせて柔軟に時間割を組み立てることができたと聞いた。

## ■事前学習ではビデオと学習シートを活用

講演の前の事前学習には、前週の2コマが当てられた。ビデオで、信州大助教授を辞めて単身ペラルーシに渡り、3年間甲状腺ガン診断・治療のボランティアに携わった菅谷昭医師（現・長野県松本市長）を取り上げた番組「チエルノブイリの傷

跡のメス」（NHK放送、2003年）を視聴した。学習プリントを使いながら、生徒たちは番組の印象や菅谷医師の思い、生き方について考えた後、同じ思いから活動している団体としてチエルノブイリ医療支援ネットワークについての説明を聞き、当日の質問をシートに記入した。出された質問は先生が一旦整理し、事前にスタッフに教えていただいていた、当日の話の構成を考える参考とした。

## ■講演当日と相次いだ生徒からの質問

5月21日（水）の5・6時間目を使った講演の時間では、冒頭、ペラルーシの民族衣装に着替えた生徒たちによる、ロシア語での自己紹介から始めた。「ズドラスト・ヴィチェ。メニャーザブート（初めまして。私の名前は）」と、前に出た生徒たちが照れながら挨拶。ゴメリ州で実際に着られている民族衣装は、丁寧に民族模様が手刺しゅうされた鮮やかなもので、生徒たちの興味を引くようだった。

45分間の講演の中では、ペラルーシの場所や自然、生活文化を紹介した後、どんな事故だったか、事故の後どんなことが起きたか、被災者の命を救うた



めにどんな活動をしていて、どんな成果が出ているか、日本で支える方たちの気持ち、今抱えている課題や今後の展望について、スライドを交えつつ、できるだけ分かりやすく伝えるよう、難しい言葉も平易な言葉に置き換えながら話した。

話が終わり質問時間になると、最初はなかなか手が上がらない。少し話を続けると、ぼつり、ぼつりと手が上がり始めた。「今もチェルノブイリは放射能を出しているのか」「この事故はあとどれくらいで解決するのか」など、まっすぐな視線で見たチェルノブイリへの疑問もあり、「ベラルーシに行ったら一番印象に残ったことは何か」「ベラルーシに行くとき放射能が怖くなかったか」「何人の子どもが甲状腺ガンの手術を受けたか」「いまだにガンになる人は多いのか」といったベラルーシや病気に関するもの、「ボランティアを

していて大変なことや良かったことは何か」「なぜ講演などの活動をしように思ったのか」「私たちがベラルーシの人々のためにできることは何か」などの質問が出た。

#### ■事後学習としての補足資料と振り返り

講演終了後には、別室に展示していた活動写真パネルやベラルーシの民芸品などを見学した。事務局で製作した、ベラルーシの自然や日常風景、チェルノブイリ原発周辺の現在の様子、医療支援の現場の写真パネルを、「のぞみ21」

で手作りされたマトリョーシカや麦わら細工、麻布や刺しゅう製品、白樺の

木工品などと一緒に事前に学校に郵送し、展示のためのスペースを設けていただいた。教室へ戻ったあと「お話を聞いて思ったこと」「石峯中の一員として、どんな国際ボランティアができるか」についての感想を書き、授業の振り返りを行った。

#### ■授業後に寄せられた生徒の感想

左記に石峯中の生徒の皆さんの感想を拾ってみる。等身大で受け止めたそれぞれの感想には、読んでいてハッとさせられるものも多かった。チェルノ

ブイリを自分の身近なものとして受け止め、「もし自分だったら」「私にできることは何か」「困っている人の役に立ちたい」と広げてとらえている姿に、この講演で一番伝えたかったものがきちんと届けられたのだと感じた。校長先生や教頭先生を始めとする先生方の活動へのご理解、ご協力で改めてお礼申し上げたい。生徒の皆さんがチェルノブイリや困難な立場にある人々のことを思いやり、自分が行動を起こすきっかけとしてもらえたら、これ以上の願いはない。

### 石峯中学校1年生の感想ノートから

- こんなことがあったなんて知らなかった。他人のためにボランティアをしようという気持ちがあつてすごい。お話を聞いて、私も他の国の人のために何かしたいと思った。
- 身近な人達があの大きな事故に関係してボランティアを行っているんだなと思って感心した。自分のできる範囲まで協力して少しでも良くなってもらえたらいい、という話もえらいと思った。
- ベラルーシの服がかわいかった。ベラルーシの写真はとてもきれいで、原発事故があつたなんて想像できなかった。
- チェルノブイリの放射能が日本にまで来ていたとは知らなかった。22年もたつて、あの事故は忘れてなくなるような、思い出したくない悲劇だけど、だからこそ忘れてはいけないと思った。
- 一番印象に残ったことは、子供たちの手術後の傷跡のこと。まだ小さな女の子が傷跡を見せていた写真だった。傷跡は大きくてとても目立ってびっくりした。
- ベラルーシの人は、病気で苦しんでいて暗いと思ったけど、病気に負けないくらい元気で明るかったのがびっくりした。
- 最初、こんな事故起きなければ良かったのにと考えた。起きてしまったことはしょうがないけど、それをすぐみんなに知らせていればもっと対策ができ、大量の死者を出さずに済んだのと思った。僕も大人になってボランティアや他の人のために何かできる人になりたい。
- もし私がベラルーシにいたら、甲状腺ガンになっていたかもしれない。それに、ガンになって手術しても、一生薬を飲み続けなければいけないので大変だと思った。アンナちゃんのお母さん（注：リュドミラ・ウクラインカさん）は、自分が大きな傷を負った経験を生かして、カウンセリングをされていてすごいと思った。
- ガンになつても傷が残っている人のことを聞くと、「昔のこと」とすませるのではなく、チェルノブイリで苦しむ人に少しでも力になれるといいと思った。
- チェルノブイリの子供が書いた絵は、子供が泣いていたり回りの家が燃えていたりして、すごく苦しかったという思いが伝わってきた。
- チェルノブイリ事故のことを語り継いでいきたい。
- チェルノブイリで苦しんでいる人のために、少しでも私たちの石峯中学校が役に立っていると思うととてもうれしい。

# ベラルーシ、ミンスクのNGO「コンフィデンス」

## 第3回 ～「コンフィデンス」の活動状況、支援状況について～

ベラルーシの首都ミンスク市にある現地 NGO「CONFIDENCE (コンフィデンス)」は、健康に重点を置き、貧困層の母子のケアを行う市民団体です。チェルノブイリ医療支援ネットワークは2001年より協力体制をとり、支援を続けています。

2007年秋に行った、イリーナ・アリノビッチ代表へのインタビュー、連載最終回となる今回はコンフィデンスへの支援状況や、コンフィデンスの活動状況についてお届けします。

(2007年10月ミンスク市内にて 聞き手：津島朋憲)



異文化交流



子供向け教育プロジェクト

コンフィデンスの  
活動アルバム



スイスでの短期保養



社会劇



オーストリアでの短期保養

——現在の活動状況、支援状況を教えてください

——ミンスク悪性腫瘍研究所の子どもたちにも支援の手を差し伸べています。

私たちの団体は赤十字とは関係はありません。赤十字は半分国の団体のようなものです。私たちは完全な市民団体です。スポンサーから支援金を集めて活動しています。

——ドイツのパートナーからの支援は受けていないのですか？

今は直接お金を受け取ってはいません。しかし、夏の保養プロジェクトの費用は彼らが賄ってくれています。また、ベルギー、オーストリアからの人道支援物資もあります。その中には食料だけではなく、乳母車などもあります。

現金をもらっているのは「チェルノブイリ医療支援ネットワーク」からだけです。こういう支援金は、健康学校の講師代として使っています。

(2006年レポートより)

実際に団体の運営にかかる費用は下記のとおりです。

部屋代、水道光熱費、排水、電話代…35～60ドル/月

健康学校の先生たちへの報酬…50～70ドル/月(注…毎月ではない)



# 理事長交代の しめどろり

## しめどろり

6月28日に臨時総会を開催し、理事長交代が承認されました。新旧理事長よりご挨拶申し上げます。

### 退任ご挨拶

矢野 宏和



こんにちは。矢野宏和です。この度、理事長を退任させていただきますことになりました。この間、お世話になった会員の皆様、ベラールシ、日本の医療関係者の皆様、そして理事の皆様、顧問の山田英雄さん、本当にありがとうございました。

### 着任ご挨拶

寺嶋 悠



いつもさまざまな形で、チェルノブイリを共に支えて下さっている皆さまに、心より御礼申し上げます。この度、理事長の任を受けさせて頂きました寺嶋です。活動が充実する一方、世間の関心は薄れつつあり、チェルノブイリ医療支援ネットワークも過渡期にあります。被災地に残されている課題は余りに大きく、限られたスタッフや医療専門家だけでは解決することはできません。

目を閉じれば、いくつもの貴重な出逢いが脳裏をよぎります。私にとってはチェルノブイリへの支援活動は、多くの学びや気づきを与えてくれるものでした。この先、どのような活動をするにしても、そのことへの感謝の想いを忘れずに、何事にも前向きに取り組んでいきたいと思っております。

私が理事長を退任した後は、寺嶋さんを中心に理事会が運営されていきます。幸い、私という理事長の力不足から、まわりの理事が助け合いながら自らの役割を自覚し、それぞれが自立的に活動を展開できるような良い体制になっていきます。事務局もキャリアを積み重ねて大きな安心感があり、これからこの団体は今までと変わらず発展していくと信じております。

これからも理事として、会員として、活動に関わって参りたいと思います。これまで本当にお世話になりました。

ぜひお願いしたいことがあります。チェルノブイリ医療支援ネットワークのことを、もつともっと身近に、ご自身の団体として感じていただければと思います。私たちもまた、皆さまにとって願っている、身近な存在でありたいと願っています。市民の視点を失わず、今まで以上に活動や現地の様子を身近に感じていただき、皆さまのご意見や声援、お叱りの声を真摯に受け止めて、更により活動につなげていきたいと考えています。理事長の任は私にはいささか大きすぎるのですが、他の理事やスタッフと共に、被災者の命を救う困難を解決してゆけるよう力を尽くしていきたいと思っております。引き続き、共にお支え下さいますようお願いいたします。

## 「のぞみ21」ステパンさん訃報

8月中旬、チェルノブイリ医療支援ネットワーク事務局に、悲しいニュースが伝わってきました。

妻のナターシャさんとともに、夫妻で福祉工房「のぞみ21」を運営してこられた、ステパン・コバレバさんが亡くなられました。まだ詳細は確認できていませんが、スズメバチに刺された事によるアレルギー性ショック死とのことです。

ステパンさん、ナターシャさん夫妻は、息子のオレグさん(享年20歳)の白血病治療後の経験から、「社会で孤立しがちな若いチェルノブイリ被曝者と障がい者に、居場所と経済的自立の場を」と、チェルノブイリに近いゴメリの町中に、親子で「のぞみ21」を立ち上げました。しかし、1999年にオレグさんが肺ガンでこの世を去り、2005年には、娘のニーナさん(享年34歳)が、孫娘のナターリヤちゃんを残して胃ガンで先立つというさらなる不幸が続きました。

最愛のパートナーであったステパンさんまでもが先立つという突然の出来事に、妻のナターシャさんが、今、どれほど深い悲

しみの中にいるかを思うと、かけるべき言葉がうまく見つからないと思います。2001年に九州、京都、東京と各地で開催した事故15年報告会では、体調のすぐれないナターシャさんを優しく気遣うステパンさんの姿を、



ステパンさん、ナターシャさん夫妻

多くの会員の皆さんが目にしたことと思います。また50代の若さでした。

民間の福祉作業所がほとんどないベラルーシで、経済的にも社会的にも困難な状況で生きる若者が寄り添う場を作る「のぞみ21」の活動は貴重な存在です。しかし、通信でも度々お伝えしてきた通り、近年の「のぞみ21」の経営は、材料費高騰や国の福祉政策の影響から、経済的にますます厳しくなっています。今後の「のぞみ21」の存続も気になります。

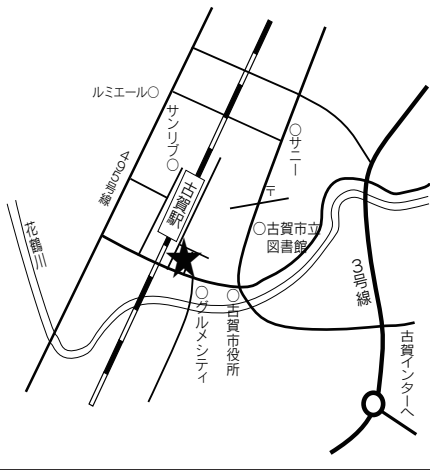
秋の検診団派遣の際にはナターシャさんを訪れ、「のぞみ21」の雑貨仕入れだけでなく、近況や工房の今後について話し合う予定です。ステパンさんのご冥福を心よりお祈りいたします。

## 新事務所ごあんない

今年6月、事務所を古賀市へ移転しました。新しい事務所は、JR古賀駅から徒歩5分と便利な場所です。チェルノブイリ関係資料、のぞみ21雑貨、活動の写真などもあり、事務ボランティアも募集しています。お気軽にお立ち寄り下さい。

### チェルノブイリ医療支援ネットワーク 事務局の新しい住所

〒811-3102  
福岡県古賀市駅東2-6-26 パステル館203号  
TEL/FAX : 092-944-3841  
E-mail: jimmu@cher9.to  
<月~土曜 10:00 ~ 18:00>



## 事務局日誌より

# 主な活動報告

日々の活動の様子は、ホームページの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。  
<http://www.cher9.to/>



民族衣装を着た中学生たち



パネル展示の様子

### ◆5月21日(水)

**北九州市立石峯中学校で講演**  
総合学習時間に同校1年生の皆さんを対象にお話をさせていただきました。詳しくは6ページをごらん下さい。終了後の質疑では「チェルノブイリは今も放射能を出しているのか」「ガンの手術を受けた子の傷跡は消えないのか」「チェルノブイリに行く時恐ろしかったか」などたくさん質問が寄せられました。

### ◆6月14日(土)

**NGOシンポジウムに参加**  
福岡市で開催されたシンポジウム「国際社会とNGOの役割」に、理事長の寺嶋がパネリストとして参加しました。基調講演に続き、チェルノブイリ医療支援ネットワークを含む4団体のスタッフが活動報告やパネルディスカッションを行いました。会場では1週間、活動写真パネルの展示も行われ、たくさんの方に足を運んでいただきました。



水巻の旧事務所の様子



広島の特任家の皆さん



商品開発ボランティア募集中

### ◆6月17日(火) 事務所を引越

長らくお世話になった水巻町から古賀市へと事務所の引越作業を行いました。運送屋さんの手際の上よさと腕っぷしの強さにビックリ。移動後、多くの方からイス、カセットコンロなどを寄贈していただきました。ありがとうございました！

### ◆6月29日(日)

**広島にて甲狀腺ガン検診の打合せ**  
広島市にて、医療専門家を交えて検診の打合せを行いました。打合せのテーマは、今年のベラルーシ訪問や今後の協力体制や支援の内容などについて。善意で共に支えて下さる日本の専門家や会員の皆さんとともに、今後もさらに積極的に活動を展開していきたいです！

### ◆7月7日(月) のぞみ21会議

福岡市にて工房「のぞみ21」の商品開発や仕入方法などについて話し合いました。ウェブショップで「のぞみ21」雑貨を扱ってくださっている会員さんにも参加していただき、デザインなどについて色々なアドバイスをいただきました。会議で出たアイデアを「のぞみ21」へ伝え、今後も工房を存続できるようにがんばりたいと思います。



チャリティフリマ中です



昨年の講義の様子



男性参加者にも好評でした

### ◆7月19日(土) 21日(月祝)

**福津市宮地嶽神社でのロックフェスティバル「ミヤジックフリーマコーナー」に出店**  
野外だったため、自前のテントを張るところからスタートし、非常に暑い中、何とか3日間のりきることができました。非常に暑い中、活動について耳を傾けて、カンパをしてくださる方もいらっしゃいました。

### ◆7月22日(火)

**北九州市立立石で講演**  
昨年引き続き講演の機会をいただき、理事の山口が活動報告を行いました。チェルノブイリに興味を持ち、講義の後で質問に来られる学生さんいらっしゃいました。こうして若い世代の方にチェルノブイリを伝えていくことも非常に大切だと改めて感じました。

### ◆7月27日(日)

**ベラルーシ刺しゅうカフェ**  
福岡市にて、「のぞみ21」の手作り雑貨でおなじみのクロスステッチをやってみよう！というワークショップを開催。簡単そうに見え、実際にやってみると意外に大変。今回は刺しやすいうマス目のあるクロスステッチ用生地を使用しましたが、「のぞみ21」の雑貨は普通のリネン生地、細かい布目を数えて丁寧に刺されています。改めて「すごい」と感心しつつ、刺しゅうとコーヒーを楽しむました。

私も応援しています!

# 会員さん紹介コーナー

## Vol.2

このコーナーでは、チェルノブイリを支えて下さっている会員の皆さまより、医療支援活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。取材/河上

本日の会員さん  
**大淵 清子さん**  
 <東京都板橋区>

### 子どもの受け入れサポートがきっかけ 試行錯誤の活動に感心しています

〈以前、東京の窓口として、いくつものイベントに協力してもらいました。まずはその思い出から〉

最初に活動にかかわったのは93年の秋に少女舞踊団「パレスカヤ・ゾーラチカ」が来日した時です。子どもたちが九州から東京に戻った時に「としまえん」に連れて行きました。知り合いの方の好意で全員分の入場券を手配してくれたのです。この時の子どもたちの素敵な笑顔と、年齢の割りに身体が小さいことがとても印象に残りました。

その2年後の95年、作文集『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』の作者4人が来日したときには、東京での交流会に参加しました。小グループに分かれての交流となり、高校生のグループに加わっていたのですが、話題が宗教のことになると日本の高校生は議論に加わることができなくなっていました。ベラルーシの子どもたちは自分の考えをしっかりと持っていることがわかりました。



95年、作文集作者との交流会 (東京都)

〈仕事のことなど教えてください〉

内閣府の外郭団体である財団法人青少年国際交流推進センターに勤務しています。国際交流の仕事ですが、チェルノブイリとの直接の関係はありません。ただ、作文集の作者との交流会の後で初代駐日ベラルーシ大使のサエンコフさんと知り合い、そのことがのちに役に立ちました。

ある時、総務庁との共催で皇太子殿下ご夫妻が出席されるパーティーがあり各国大使が招待されたのですが、着任されたばかりのサエンコフ大使は要領がよくわからず困ってありました。その姿を受付にいた私が見かけて、無事に会場に案内することができました。

〈チェルノブイリ医療支援ネットワークをどのように見ていますか〉

長年見て感じることは相手が必要としている物や事を最優先にし、スタディツアーを組みながら支援物資を現地に直接届けたり、また相手には気が

つかない所を、こちらでこうした方がよいのではと色々試行錯誤をしながら活動を進めることに感心しています。日本から志を同じくする医師に同行してもらい現地の医師の技術指導をしてもらったり、「雪だるま号」を寄贈して移動検診を行ったり、民間のボランティア団体でここまでするのは本当に凄いことだと思います。

〈団体名から「九州」が取れても、どうしても活動の中心は九州に偏っています。今後、東京での活動はできますか〉

以前のように東京での企画があれば参加することはできます。日本医科大学の関係者や東京周辺の支援者との連絡が取れば、何かの会合を開くことも可能だと思います。こちらでは医療支援の内容については通信を見るだけなので、日本医科大学の先生の話聞く機会を作ってもらえたらもっとよく知ることができると思います。(談)

## 2007年度会計報告

2007年度 収支決算書(2007年2月1日～2007年12月31日)  
 及び 2008年度 収支予算書(2008年1月1日～2008年12月31日)

科目	07年決算	08年予算
(資金収支の部)		
I 経常収入の部		
事業収入		
のぞみ21支援事業収入	520,879	600,000
報告会・講演会等開催事業収入	9,450	200,000
書籍販売事業収入	9,900	100,000
イベント参加事業収入	285,950	90,000
コーヒー販売事業収入	627,658	650,000
事業収入計	1,453,837	1,640,000
補助金等収入		
民間助成金収入	865,540	300,000
補助金等収入計	865,540	300,000
寄付金収入		
寄付金収入	10,726,911	10,000,000
寄付金収入計	10,726,911	10,000,000
雑収入		
受取利息	1,859	1,800
雑収入計	1,859	1,800
経常収入合計	13,048,147	11,941,800

II 経常支出の部			
事業費			
	検診・調査・スタツアー事業	3,050,701	4,000,000
	のぞみ21支援事業	279,136	300,000
	報告会・講演会等開催事業	31,732	140,000
	講師派遣・パネル展事業	9,298	10,000
	会報発行事業	1,260,377	1,600,000
	インターネット事業	134,001	100,000
	書籍販売事業	191	50,000
	イベント参加事業	159,513	70,000
	コーヒー販売事業	339,323	400,000
	会活動計	472,486	500,000
	事業費計	5,737,258	7,170,000
	管理費計	5,133,624	5,787,440
経常支出合計		10,870,882	12,957,440
経常収支差額		2,177,265	-1,015,640
III その他資金収入の部			
	繰入金収入(任意団体より受入)	4,105,067	
その他資金収入の部合計		4,105,067	0
IV その他資金支出の部			
その他資金支出の部合計		0	0
その他収支差額		4,105,067	0
当期収支差額		6,282,332	-1,015,640
前期繰越収支差額		0	6,277,932
次期繰越収支差額		6,282,332	5,262,292

# たくさんさんの募金を ありがとうございました。

(敬称略、順不同)

荒木潔枝 三根麻理子 有末あけみ 沖・前田・中西・渡辺 佐竹早苗 齊藤美代子 長棟かおる 大城りか 室屋芳乃 岡本順子 橋本直子 松尾満子 江野幸子 立石肇引 田山良子 淀川良子 森山涼子 大久保伸子 武田孝和 岸川美好 中村照子 金山キミエ 宇都宮裕子 隅田三和 大山静香 立石千絵 田中宮二子 金貝律子 西井えりな 土持秀男 由利子 朱加川口房子 川原登喜の 松本美子 深堀ミチ子 坂中浩子 太田昌子 村上和代 水落靖子 平田美恵子 古賀えみ子 森澤恵子 めぐみ保育園 職員一同 古賀輝洋 北野博 上野三佳子 神田有希子 中陽子 大場百合 川久保美和子 相川靖 大崎知恵 大谷正徳 大場満 河上雅夫 工藤メグミ 後藤順子 佐藤進一 サトウ 矯正 齋藤クリニック 庄龍道子 竹田恵子 中村洋子 水野隆文 野村啓子 樋水昭宏・カツ子 宮崎宏之 山口郁代 磯道綾子 梅野千枝子 清原美津子 佐藤久美 財津悠子 塩江伸子 白浜千恵子 平室子 坪山美由紀 鳥原良子 野江之子 野中孝子 平島優子 廣松初美 置美穂子 松尾智恵子 水本敬子 山田美佐子 大淵恵津子 緒方晶子 落石久子 古賀千種 定村洋子 祝喜代子 納富育代 村西美由紀 森悠子 案浦小百合 祝喜代子 里見照子 中村幸枝 松本素子 三野桂子 村田聡子 善光寺・青木敬子 佐藤照子 荒牧裕見子 富永峰子 保元内科クリニック理事長 保元徳宏 平原久子 黒岩英子 寛正寺 上村匠子 チェルノブイリ支援申木野の会・藤田はつほ 和田豊美 稲田照子 水野沙智子 渡辺幸之 新 吉田久美子 金竹明美 延壽富美 林裕之 橋本照子 鶴田光子 渡辺広子 桜井美喜子 前田祐子 前田靖子 井本豊子 伊藤まゆみ 富永和子 前田育子 石本祥二郎 倉橋道子 楠凡之 福井初子 佐藤江 加茂康子 永田篤子 倉橋道子 高山幸子 榎本みつ枝 松尾博文 坪川裕子 江藤俊明 道守弘 丸山小より たかはし小児科医院 紙森優子 永尾ゆかり 珍部千鳥 赤木沙佳子 立木敏枝 堀晶子 中原範子 青木裕司 岡野祐子 亀川早苗 内野孝子 福間由岩 口香織 丹羽道代 松下裕子 キープ自然学校 福岡由紀子 種和子 後藤宇企子 高山知佐子 藤本孝子 安田靖子 大庭由美子 田代純子 山中京子 大芳友穂 新田純 吉田千佳子 富永隆史 山下君子 古賀芳子 山本亮輔 友景忍 片岡八重子 有川恭子 清水悦子 榎崎悦子 藤本淳子 川尻愛子 江口都世子 山本敬子 佐方肇子 松井晴美 坂口馨子 高木まり 坂本ヒロ子 LIFEB&ART 青空 東海林由紀 小田美香 安田由紀子 松本美智代 大塚卓子 磯本真澄 関根敏子 荒武治美 福壽 伊東弘美 笹田伸恵 足立くにこ 山田聖 久野直子 有馬智子 藤立悦子 津田知枝 西上光子 石野恵子 阿佐部

映尾本由紀 武良恵美 川上彰子 小菫悦子 松浦公子  
大庭きみ子 片岡みか 沖田千鶴子 加賀君子 中西裕子  
藤本由美 篠原美希枝 金谷照美 中村重美 笹井優子  
石田仁美 天野由美子 中垣光子 永富憲子 畑えり子  
佐藤久子 山本直美 原田綾子 廣橋土枝 菅根愛子  
安永路子 山本美代子 菅原麻季 吉岡すみれ 菅根愛子  
上村郁代 浜島五月 下畑浩美 森本教子 佐々木ひろみ  
前田和義 前村典子 井手昌子 吉竹佐智江 岩崎郁代  
奥水洋幸 本園美智子 寒井順子 藤井千草 島中聡子  
西田明日香 内兼久美由紀 赤坂ヤエ子 遠山治仁 原田  
新子 宮崎ヒロ子 長瀬清 田代トヨミ 服部祥子 中村正  
子 木村良美 緒方勢子 榎本房子 中村美紀 田中美穂  
子 兼賀玲子 松田珠理 佐用佳代 鬼崎万理子 有田恵  
美 兼清なおみ 西開地由美 古賀美恵子 長尾知子 植  
松久仁子 高松清子 小野希素子 中森和恵 宮本洋子  
山本弘美 瀬戸素子 宮地智寿子 井本信子 梶山のり子  
太田潤子 タイセン ケビン 貴子 琴尾明子 荒井真佐子  
生田裕子 有竹悦子 西川竹美 小土井律子 宮本千鶴  
松本ミク子 大野登世美 杉本幸康 上田美穂子 野田昭  
代 緒方君江 前田博子 谷川リョウ子 井手尾益美 遠山  
富士子 是松洋子 古賀聡子 小関浩子 吉田陽子 浅田  
聖子 渡辺久美子 甲斐誠子 森崎志津子 永田真由美  
後藤輝美 唐見由美 井上喜代子 林茉莉子 工房フワ  
ズ 山口みゆき 原田ツヨ子 金子幸夫 梅根武 山崎さ  
お 松岡和子 林留美 児玉佑喜子 チェルノブイリの会  
英空寺 宮西いつみ (財) 福岡YWCA グリーンコープ  
生活協同組合おおいだ 広河隆写真展事務局 なおみの会  
共同作業所喫茶廻音 筑豊互助会 チェルノブイリ友の会伏  
見台菊池順子 桑山道子 柳楽翼 NPO法人じやがいも  
のわうち

(2008年5月1日～7月31日までに募金をして下さった方、ならびに「のぞみ21」雑貨・チェルノブイリ支援コーナー・紅茶の購入を通じて活動を支援して下さいました方です。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方のみ掲載しています)

▼「チェルノブイリ通信」が置いてあるところ(順不同)。  
▼(財)福岡国際交流協会▼(財)北九州国際交流協会▼(特活)NGO福岡ネットワーク▼(特活)名古屋NCO国際協力プラザ(東京都文京区)▼(特活)福岡YWCA国際協議会▼福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん▼国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館▼日田市人権情報センター▼北九州市市民活動小倉店▼キープ自然学校(山梨県北杜市)▼ほっとはうす(熊本県水俣市)▼あるがまま舎(大分県玖珠郡)▼ベラルーシの台所(東京都港区)  
▼以下NEW!  
▼順(東京都中央区)▼企業組合エコネットみなまた(熊本県水俣市)▼久留米市市民活動サポートセンター

合計	2,243,775円
活動支援金	346件 2,115,036円
のぞみ21カンパ	35件 96,839円
雪だるま3号カンパ	9件 31,000円

## 皆さんからのメッセージ (二部抜粋)

●事務所が近くになって嬉しいですが、雪くなります。皆さま、お気をつけて。いつも通信を送って下さりありがとうございます。●これからも支援を少しですが続けていきたいと思つてます。●新住所での御活躍を期待しています。●わずかながら祈りと共に。●みなさんのお役に少しでもなれればと思つています。●ささやかな幸せが続くことを願いつつ。●のぞみ21が継続できるようにと願っています。●いつも気持ちだけですが、活動応援しています！●健康を、美しく安全な地球をとりもどそう！！小さくとも希望の光となりますように！！●細々と応援しています！●同じコーヒーを飲むなら、協力出来る方をお願いします！●核の被害は終わりがなく、心にも体にも深い傷を残しますね。●幸せすぎる日本。でも心はどちらが豊かなのだろうと考えてしまいます。頑張ってくださいね。●わずかばかりですが、少しでもお役に立てると嬉しいです。●核のない平和な世界が訪れますように！頑張ってください。●可愛いマトリョーシカ、大事にします！●チェルノブイリの方々の健康と心おだやかに暮らせる日がくる事を祈つてます。●これ以上、地球とそこに住む生き物を傷付けなために、ささやかですが協力させて下さい。●子供達の明るい未来を祈っております。●22年前私は19歳でした。今、2児の母です。苦しんでいるチェルノブイリの子ども達を想うと涙があふれてしまいます。

編集後記 職場や自宅も離れた二人が編集担当で、なかなか打合せもままならない中、メールの活用で何とか無事発行できました。これまで編集担当だった矢野さんの苦勞の部が分かりました。今年の検診も少ない資金からの派遣です。一層の協力をお願いします。(M.K)